

「室蘭市地域公共交通網形成計画（素案）」への パブリックコメントの実施結果について

1. 実施概要

(1) 募集期間

平成31年1月4日（金）～平成31年2月4日（月）

(2) 公表場所

①市ホームページ及び広報紙への掲載

②市内公共施設への設置（10箇所）

- ・室蘭市役所本庁舎（1階証明交付コーナー）
- ・むろらん広域センタービル（1階戸籍住民課）
- ・蘭東支所（「えきがるセンター」東室蘭駅自由通路東口）
- ・保健センター（3階）・水道部庁舎
- ・生涯学習センター「きらん」・室蘭市体育館
- ・市民会館・母恋会館・本輪西会館

(3) 提出方法

公表場所に設置している意見箱への投函及び都市政策推進課への持参・郵送・ファクス・電子メールによる提出のほか、市ホームページからの電子申請

2. 提出意見数

6件（5人）

3. 意見等の概要と室蘭市の考え方

次ページのとおり

「分類」欄の番号の説明

- ①：今回の計画及び取り組みの方向性として、意見等の趣旨を反映させていただいたもの
- ②：意見等の趣旨が計画及び取り組みの方向性として、既に予定されていたもの
- ③：今後、施策事業を検討・実施する際に参考にさせていただくもの
- ④：意見等の趣旨を計画及び取り組みに反映できなかったもの、またはその他の意見等

意見等の概要と室蘭市の考え方

提出者	No.	意見等の概要	分類	室蘭市の考え
A	1	バスにICカードを導入する予定と書かれていました。ICカードの導入には大いに賛成します。ただ、各地域で報じられているようにバス会社にとって大きな金銭的負担のしかからないかも不安に思っています。ICカードの導入を確実に実現するために、室蘭市ではどのような施策を考えているのでしょうか？		公共交通へのICカード等の導入検討については、当計画（素案）45ページにおいて、「ICTを活用した公共交通サービスの向上」の観点から検討を行う事業項目として、位置づけをしたところです。 検討にあたっては、ご指摘のようにバスのみならず、JRなど公共交通全体のシームレスなサービス提供が重要であると考えておりますことから、近隣市町や交通事業者との連携のほか、導入に係る交通事業者の負担軽減などといった課題を整理しながら、いただいたご意見も参考に、計画の推進に努めてまいります。
A	2	また、バスだけでなくJRへのICカード導入の働きかけは行われないのでしょうか？ バスとJRが同じICカードでシームレスに利用できるようになれば、市民が公共交通を利用しやすい状況が生まれると思います。乗り継ぎ運賃も設定すれば、なおさらでしょう。白老に民族共生象徴空間もできることから、この際に近隣自治体と協議を行って苫小牧－室蘭間でもKitacaが利用できるようにならないか、検討していただければと思います。	③	
B	3	人が集まりやすいところにバス停を置いて欲しい。	③	当計画（素案）40ページでは、バスの路線別の利用状況や室蘭市立地適正化計画で設定する誘導区域や施設、幹線・支線の役割などを踏まえ、持続可能なバス路線網の構築を進めることとしていますので、いただいたご意見も参考に、計画の推進に努めてまいります。
C	4	室蘭はご存知の様に坂道が多く取り残された様に高齢者所帯が有ります。これは人口の減少に伴い地域活動からの孤立だと考えます。地域の隅々に行き渡る交通網の整備、消して大型ではなくていい交通網の整備、コミニティーバスの運行、商業地が中島地区につながる公的サービスをご一考願います。	③	当計画（素案）35ページでは、基本方針2として、「地域特性を踏まえた多様な公共交通の確保」を掲げており、本市の地域特性である、坂が多いことや、沢ごとに形成された市街地などを踏まえ、それぞれの特性に応じた最適な公共交通が重要と考えておりますので、いただいたご意見も参考に、計画の推進に努めてまいります。

提出者	No.	意見等の概要	分類	室蘭市の考え
D	5	<p>JRが未来永劫存在する前提になっていますが、大丈夫でしょうか。</p> <p>JRの東室蘭-室蘭間をライトレール化して幹線と位置付け、自動運転の路面電車車両等、運行コストを抑えられる車両に置き換えることで多頻度化しつつ、室蘭駅から祝津方面へ延伸も検討する等、思い切った計画を立てることも必要ではないでしょうか。高齢化の激しい室蘭市において、「自動車に頼らなくても生活できる街」にしないと、若者が出て行くばかりでなく、自動車を運転できなくなった高齢者も出ていくまちになってしまいます。高齢者がより永く元気に暮らせるまちを目指すために、大胆な交通網の刷新計画を期待します。</p>	③	<p>当計画（素案）54 ページでは、「室蘭市が目指す公共交通網のイメージ」を掲載していますが、JR 室蘭駅と JR 東室蘭駅を結ぶ軸を拠点間の幹線軸、それ以外の部分は骨格となる幹線軸として位置づけています。市内公共交通網を形成しているのは、JR のみならず路線バスやタクシーもその役割を担っています。このような公共交通網を持続的に維持していくため、室蘭市立地適正化計画などのまちづくり計画とも連携しながら、高齢者も安心して過ごせるまちづくりについて、いただいたご意見も参考に、計画の推進に努めてまいります。</p>
E	6	<p>外国人観光客の需要が増す一方、人口は減る。お金もない。で、どうするか。私はまち先を考えると、いま水素水素という必要はないと思います。あくまで国策の1つとしかとらえていません。しかし、交通機関によって、各地をつなぐという観点からは、単純に国費で水素自動車を買うのではなく、JR と協力して、水素電車を東室蘭と室蘭の間に走らせる、水素バスを走らせるといったことをするなら、集客力と全国区へのPR、その先に収益にもつながると思います。PRに協力してくれる企業も出てくるかもしれません。企業誘致へのイメージにもなるでしょう。いまだあれば、AIによる自動運転にするとより効果的でしょう。</p>	③	<p>ご指摘のように今後人口減少が見込まれる中では、持続可能な公共交通網の再構築が重要となりますので、ご意見のありました水素の有効活用案など、多様な公共交通手段について検討し、計画の推進に努めてまいります。</p>